

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200810		
法人名	有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生		
事業所名	グループホーム蔵		
所在地	札幌市北区新川2条10丁目1-35		
自己評価作成日	平成24年1月31日	評価結果市町村受理日	平成24年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170200810&SCD=370
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成24年2月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日、ミーティング時に、その日の勤務スタッフ全員で運営理念の読み合わせを行ない、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内の清掃、新年会などの行事に参加している。又、近所の方々がボランティアで紙芝居やマジックを披露してくださっている。地域の児童会館との交流会も行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、地域の為にホームにできる事などを話し合い、地域の高齢者の相談窓口としての役割も担えるよう努めている。又、年一回、ホームの公開と介護相談会を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動内容、利用者様の様子については、会議の中で報告し、意見を頂いている。会議を通じ、地域のボランティアによる紙芝居やマジックなどで利用者様との交流が出来、サービス向上に生かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外に連絡を取り合うことは少ないが、包括支援センター職員等に意見や指導を積極的に受けて行きたい。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、学ぶ機会を持っている。禁止の対象となる具体的な行為については、日誌にファイルし、正しく理解できるよう努めている。玄関の施錠については、日中は施錠していないが、夜間は、防犯の為、施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、学ぶ機会を持ち、虐待に対する認識を深めている。ホーム内の虐待については、職員と十分に話し合い、利用者の様子を観察し、注意を払っている。虐待とまでは言えなくても、不適切なケアについての具体例についても、話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、学ぶ機会を持っている。研修の内容を記録し、職員に回覧し、ミーティング等の機会に他の職員に伝え、理解を深めている。又、今後、ご家族にも理解を深めるような取り組みも考えていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には詳しく説明し、理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族には、いつでも意見、不満等を管理者や職員に伝えていただけるよう、声掛けしたり、信頼関係を作るよう努めている。又、ご家族には、来訪者カード等に、意見を書く箇所を設けている。さらに来訪時や家族会等で要望等を聞くよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に機会を設けてはいないが、毎朝のミーティング時には運営者や管理者も参加し、職員の意見を聞けるよう努めている。他、個別に面談等を行い、対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事に対する取り組みが良い場合は、声をかけ、評価を伝えている。又、外部の研修への参加を促し、向上心を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修では、希望する研修内容を職員から聞き、年4回実施している。内1回は経験年数に応じた研修ができる様、分けて行なっている。又、外部の研修にも希望を募り、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議等で同業者との交流はしている。相互の意見交換を通じて、サービスの向上に努めている。地域のグループホーム同士の交流の機会は少ないので、今後は年に1~2回程度は行ないたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時にご本人にも来訪していただいたり、管理者やケアマネージャーが自宅等を訪問し、傾聴して出来るだけご本人の思いを汲み取れるように努めている。又、ご家族等から本人の思いを汲み取れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご家族からよく話を聞き、不安等を汲み取っている。又、グループホームでのケアの内容や生活の流れなどを説明し、利用にあたり、心配を最小限にできる様努め、ご家族との信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまで利用していた支援等の情報や身体状況を見極め、対応を行なっている。訪問診療や通院、必要な福祉用具についても対応を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の豊かな人生経験を活かし、畑仕事や料理、裁縫を教わったり、一緒に過ごす時間を大切にしている。又、職員が利用者様に、人生相談をする事もある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が不穏な状況の時にはご家族にも協力していただき、電話や来訪で、安心できる声かけをお願いしている。又、家族会等で認知症の理解を深め、ご家族や職員がご本人の傍にいる事の大切さを伝えている。来訪時やホーム便りなどで個別に、認知症に伴う症状等の変化を伝え、理解を深めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所には職員が同行し、満足していただけるよう支援している。又、馴染みの人が来訪された時は居室等でゆっくり談話を楽しんで頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志の関係を考慮し、テーブルの席などを工夫している。又、関係が悪化しそうな時は、職員が間に入り、トラブルにならないように努めている。家事やリクリエーション等で互いに協力や助け合いができる関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの行事等で、ご家族から手伝いを申し出てくださり、手伝って頂いている。又、手紙等で付き合いを大切にしている。退去先の病院等にも行き、様子を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望やご家族からの情報で把握に努めている。好きな事や嫌いな事などを見極めるようセンター方式やひも解きシートなどを活用し思いをくみ取れるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人、それまでのサービス利用の事業所からの情報等でご本人の暮らしの把握に努めている。家族会や来訪の際などにもさらに情報を得よう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状態に細かく気を配り、介護日誌に記入し全職員が把握できるよう、業務に入る前には必ず目を通して見ている。また、状況に変化が見られた時にはセンター方式を使用し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画見直し時には、管理者、介護職員、看護師などでカンファレンスを行うがご家族の参加はほとんどない。課題になる事についてはご家族に相談し意見を伺い介護計画に反映できるよう努めている。来訪時にはカンファレンスの内容を伝えていきたい。また来訪のない家族へは郵送も検討していきたい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの内容、気づき、工夫などは個別に介護日誌に記入している。また、介護計画はすぐ見ることが出来るようファイルしてある。毎日、計画に沿ったケア内容をプラン実施欄に記入し、計画の見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、負担となる受診や入院を回避している。また、ご本人やご家族の状況に応じ通院等の必要な支援を行っている。フリープランとして個々の行きたい所を開き、職員と出掛けている。自己判断の難しい方については状況を見ながら外出している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は3回の避難訓練を消防署、消防団の協力で行った。そのうち1回は地域の方に参加して頂いた。また、月一回ご近所の方がボランティアで紙芝居を披露して下さったり不定期でマジックを披露して下さる方もいる。児童会館との交流も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所と訪問診療の医師は信頼関係が出来ており、医師はご本人及び家族等の希望を大切にに対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師を確保して、日常の健康管理や医療の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	書面や口頭で情報提供をしている。お見舞いに行き、ご本人が安心できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に書面で方針を説明している。重度化が予想される場合は、訪問診療の医師を中心にご家族と話し合い、方針を共有できるよう努めている。また、家族会等で話し合いの機会を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回、職員研修を行い応急処置等の確認、不安な事の確認等を勉強、話し合いを行っている。それぞれの入居者様に対し、起こりえる事を予測し、対応できるようスタッフ間で話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は3回の避難訓練を消防署、消防団の協力で実施。その他ユニットごとに避難訓練や図上訓練を行い避難の方法をスタッフ間で話し合い確認している。運営推進会議でも消防職員や消防団の参加があり、地域の人々の協力も得られるよう働きかけも行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務については徹底し守っている。言葉掛けや対応についても意識するよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る入居者様にはご本人で決めて頂いている。ご本人で決定する事が難しい時などは助言を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事等の場合は職員でのペースでの行動はあるが、基本的には入居者様個人のペースに合わせて過ごして頂けるよう意識し支援している。共同生活ではあるが、入居者様の思いを汲み取り穏やかに生活して頂きたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回、訪問理美容を利用している。髭剃りや髪の手入れ、爪切り、耳掃除等はご本人または職員が適宜行っている。行事等の時はお化粧品や口紅などでおしゃれを楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、盛り付け、配膳、後片付け等は、一人一人の力が発揮できるよう配慮しながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて食事量を調整したり、水分摂取量が少ない時は飲み物の種類を工夫したりストローを使用してみたり様子を見ながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人の能力に合わせて行っている。不十分な所は職員が介助し清潔を保持できるよう心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間ともに一人一人の排泄パターンを把握し、ご本人の行動やしぐさからも排泄サインを見逃さないよう心がけながら支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、入居者様の排便の状況を確認をしている。ヤクルトや牛乳を摂取して頂いたり、踏み台昇降等の運動を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯など職員の都合で決めている事が多いが、ご本人の希望や体調等考慮し支援している。夏期など気温の高い日などはシャワー浴や清拭などで臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思や辛い様子が見られた時は、居室で休むよう声掛けを行っている。室温や湿度にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時に名前、日付、服用時間帯を確認している。副作用等については全員が把握しているとは言えない。いつでも確認できるように薬の情報はファイルされており薬の変更などがあった場合は日誌に記入し、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、縫い物（雑巾、布巾、ボタン付け、ほつれ直し）、飾り物作成など体調や自主性を見ながら一緒に実施したり、気分転換に買い物へ出掛けたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に合わせ職員が同行し外出している。利用者様個人の消耗品等の購入は、体調等見ながら職員と一緒に買い物へ行くようにしている。一人で外出できる利用者様は携帯電話を持参して頂き、一人で出かけて頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際は一人一人の力に応じて、品物を選んで頂いたり、レジでの支払いをしてもらっている。ご自分でお金を管理されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が家族の話をされたり、ご家族から宅配の荷物が届いた時など職員の声掛けで電話を掛けて頂いている。また、年賀状などを書いてご家族に出す支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には、季節に合わせた飾りつけをしている。テレビの前にはソファがありテレビを楽しめる空間がある。トイレは三か所、洗面所は二か所あり常に清潔を保つよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は利用者様みんなでレクリエーション等が出来る広さがあり、個々でくつろげる畳ベンチがある。食卓テーブルも利用者様の相性を配慮し決めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具類をそのまま使用して頂いている。ご本人にとって必要だと思われる物についてはご家族と相談し用意できるよう努めている。転倒の危険がある物については撤去したり配置を変えたり、より安全に過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間、トイレ、浴室、階段等各所に手すりを設置し、床は、全てバリアフリーで安全に生活を送れるよう工夫している。また、利用者様に合ったルームシューズを使用し歩行しやすい環境になっている。		